

## 令和7年度 第3回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和7年12月15日(月) 午後2時から3時15分まで

2 場所 静岡県立浜北西高等学校 会議室

3 出席者(委員、敬称略)

梅林欽哉(元小学校・中学校管理職)、横田みどり(横田整形外科婦長)、  
中津川智美(常葉大学経営学部教授)、金島徹(浜名区調整官)、  
森下晃行(農業起業家/TATSUJIN 株式会社)、松本幸範(浜北国際交流協会副会長)  
学校関係者

野澤博文(校長)、小室桜子(副校長)、榎本好孝(教頭)、中村明江(事務長)、  
村松隆利(進路課長)、山本直子(研修班長)

4 議事

(1) 校長挨拶

陸上部東海大会出場、剣道部東海大会出場、サッカー部県大会で1勝(19年ぶり)、  
野球部夏大会三回戦進出、女子テニス部県3位など、各部活動が健闘している。また、  
2年模試で数学と理科の満点(全国1位)が1名ずつ、3年で静岡県立大学国際  
関係学部にも公募制推薦で合格するなど生徒達が本当によく頑張っている。

9月には、教職員集団の活性化のため、職員研修でグループワークを実施した。  
「魅力ある浜北西を目指した取組」「生徒の主体性を伸ばす取組」の2テーマで、出  
された意見が実現できるようにし、浜北西高校を一步ずつ前進させていきたい。

(2) 学校から

ア アンケート結果(教頭)

- ・令和7年度のアンケート結果は、昨年と比較して全体的に良くなっている。
- ・学習に対する主体性が課題となっている。「授業以外で自主的に学習に取り組んでいる」43%(R6)から55%(R7)、「手帳等を活用して先を見通した行動や計画性のある学習ができています」61%(R6)から64%(R7)、「時間を管理し、家庭学習の開始時間を守ることができています」57%(R6)から60%(R7)と、微増したが全体的に低い。

イ 研修課から(研修班長)

- ・毎年、浜北国際交流協会と連携し、1年生の夏季課題で「国際理解レポート」を課している。表彰式は、終業式に会長にお越しいただき実施する。
- ・今年も、AFSの留学生が3名(1学期に2名、2学期に1名)来た。アイスランド、アメリカ合衆国、インドネシアと出身国も様々で良い交流ができた。
- ・2年生の生徒1名が、県の事業「トビタテ!留学 JAPAN 静岡」に応募、狭き門を突破し、夏休みに3週間、韓国へ留学した。

ウ 進路課から(進路課長)

- ・今年は、昨年より四大がやや減少、専門・就職が増えたが、進路割合はほぼ例年通りである(6割が四大、3割が専門学校、残り1割が就職・短大)。現時点で、国公立大学に1名合格(静岡県立大学)、就職は17名が内定している。
- ・年内入試の総合型や学校推薦型の利用者が増加し、四大志望者の7割が受験した。これは全国的な傾向である。
- ・この後、受験を控えている生徒は86名。自分の目標に向け頑張ってもらいたい。

### (3) 協議

#### ア 確かな学力の育成

- ・ 自主学習が数年前からいつも話題となるが、保護者アンケートの「本校にわが子を入学させてよかったと思う」が95%と非常に高いことから考えると、自己評価Bで良いのか、学校の求めるところはこれでいいのかと疑問に感じる。もし、保護者が自主学習を望んでいるのであれば、アンケート結果はもっと低い数値になるのではないかと考えている。
- ・ 復習しないというのが例年続いているが、復習する必要があると思っているのか、必要と思うができていないのか、どちらか。そこにヒントがあると思う。
- ・ テスト後の学習時間調査を独自に行ったところ、0分と答えた生徒は1・2年25%、3年20%だった。裏を返すと、70～75%の生徒はテスト後も勉強をやっていたことが分かった。このことから、生徒アンケートでは50%と低い数値だったが、思っている以上に生徒は勉強をしていると推測された。生徒の評価基準が高いことが、50%と低い数値になった原因とも考えられる。今後は、自主学習を促したり、自主学習の中身が充実するように仕掛けたりしたい。(学校から)
- ・ 中学校の放課後ボランティアの経験から、生徒達は家に帰っても何かきっかけや働き掛けがないと勉強が続かないと感じている。「ここをこうやってごらん」と寄り添ったり、声掛けしたりが重要だと思う。
- ・ 塾の先生から、中学時代は塾のテスト対策プリントを使って勉強したが、高校になると対策プリントがなくどうやって勉強したらいいか分からないという生徒が増えていると聞いた。勉強の仕方を教える必要性を感じている。(学校から)
- ・ 読書もやれやれと言うより、アプローチを変えたらどうだろうか。なぜ本を読むのかを考えたり、個々の欲しい情報をその人のスタイルで選んだり(オーディオブック)してみてもどうか。

#### イ 「時を守り、場を清め、礼を正す」指導と規範意識の醸成

- ・ 「時を守り、場を清め、礼を正す」については奉仕の心から生まれることがあると思うので、アプローチを変えてみたらどうか。奉仕活動をしていると、当たり前にゴミを拾うようになるし、相手に対する礼儀も体験を通じて覚える。浜北西高はせっかくボランティア部が浜北ロータリークラブと提携しているのだから、力を借りてもよいのではないか。
- ・ 日本人サポーターの清掃が国際的に評価されるという話を聞く。これをヒントに、学校全体で目標を立てて清掃等に取り組んだら、最初は個々の意欲は低くても、全体評価が上がるにつれて、個々の意欲も高まることが期待できるのではないか。
- ・ 外国では清掃の仕事があり、綺麗にすると自分の仕事を取ったと怒られる。国によって清掃の概念が違うということは知っておいた方がよい。ただし、ゴミを散らかすのは駄目ということは、幼い時から教えておく必要がある。

#### ウ 体系的なキャリア教育の実施

- ・ 探究の日の発表の様子を見て、以前と比べて生徒達の課題設定が上手になったと感じる。課題に発展性があり、我々講師への対応にも余裕が見られた。
- ・ 探究活動は、生徒達だけだと気が付いてもなかなか行動にまで結び付かない。〇〇したらどうか等、大人が具体的にアドバイスする必要があると感じた。タイムリーな示唆がないと、生徒達は意欲が湧かない。
- ・ 探究のゼミグループにもよるが、大人に話を欲しくて目がキラキラしている

生徒が多いと感じた。先生方も忙しいと思うが、生徒の話を聞いてあげて欲しい。

- ・国公立大学への進学実績を上げたければ、模試成績の突出した生徒をもっとPRしたらどうか。出来る生徒達をどう育てていくのかは学校の腕の見せ所と感じた。
- ・模試満点の生徒について、元々力はあるのだろうが、どんな勉強や努力をしたのかを聞き、情報共有できると、他の生徒の参考になる。

#### エ国際理解教育の推進

- ・タイ研修旅行の中止は残念である。一生懸命準備し、機が熟し、生徒達の意欲も高まっていると思うので、できるだけ早く実現してあげたい。
- ・タイ研修旅行をもう止めるというのではなく、これからも続けていきたいということを聞いて、うれしく思う。浜北国際交流協会も一緒に続けていきたい。
- ・浜北西高の生徒は外国人に対する抵抗がほとんどない。普通はびっくりして逃げるが喜んで話をする。留学生を何年も受け入れてきた伝統なので継続して欲しい。

#### オ連携や共同活動、貢献活動、広報活動

- ・「PTA活動は保護者と職員が協力して活発に行われている」と答える保護者が88%と高いが、どんな活動をしているのか。
- ・PTA・後援会が豚汁とおにぎりを作り、無償で生徒や来校者に提供してくれた。これは、災害時の炊き出し訓練と兼ねてコロナ前から行われている。また、体育大会では保護者の応援も多く、撮影も熱心にやったださっている。(学校から)
- ・家庭的な繋がりがああり、地域性があってとてもいい。
- ・常葉大学浜松キャンパス地域貢献センター主催の「市民交流フェスタ」(11月23日)では、吹奏楽部による演奏と2名の生徒によるブース発表への参加に感謝申し上げたい。演奏も素晴らしく、発表も真剣に説明している姿も素晴らしかった。

#### カその他

- ・アンケートのデータは大事だが、数値化されることで偏って見える危険性がある。先生方が素直に感じていることを生かしていけば良いかと思う。
- ・自己評価が昨年と比べて全体的に上がったと感じるが、どの項目が上がったか。
- ・ア「教員の授業力向上」、ウ「進路指導を含めたキャリア教育(探究)の充実」、オ「探究活動の3年間の流れ」、カ「部活動の計画的な実施」の4項目の評価が上がった。逆に、評価が下がった項目は2項目あり、オ「1部活1地域交流活動」、オ「地域防災訓練」である。(学校から)
- ・保護者アンケートで「学校からのお知らせを生徒に見せてもらっていますか？」と「学校からの通知表やテスト結果を点検していますか？」の2項目を追加したのはなぜか。
- ・保護者から「通知が来ない」「テスト結果を知らない」という声がよく聞かれたので、実情を知るために追加した。数値が低いので対応していく。(学校から)
- ・全体的にやれることは結構やっただけしているし、先生達がとても頑張っていると感じる。
- ・生徒達は純粋でいい素質を持っていると感じる。